

季節の行事と行事食

ひな祭り (3月3日)

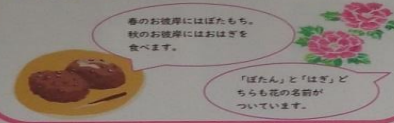
女の子の成長と幸せを願う行事。



お彼岸

(春のお彼岸 3月20日ごろ、秋のお彼岸 9月23日ごろ)

お彼岸はご先祖様に感謝する日。



花見

桜の木には稲の神様が宿るといわれ、その下でごちそうを食べ、豊作を願うのがはじまり。



端午の節句 (5月5日)

男の子の出世・健康を願う行事。



八十八夜

立春から88日目の日を八十八夜といい、新茶の茶つみが行われます。



七夕 (7月7日)

針仕事がいよいよ終わるようになり、織姫の織る糸や天の川に見たてたそうめんを食べます。



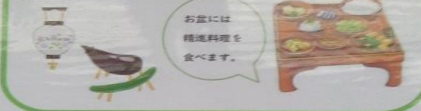
土用 (7月20日～8月8日ごろ)

暑い夏の土用の日に、夏バテ防止のためにウナギを食べる習慣があります。



お盆 (8月13日～16日ごろ)

家族や親戚が集まって、祖先の霊に感謝する行事。



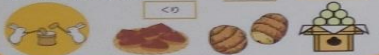
重陽の節句 (9月9日)

不老長寿の象徴とされる菊の花をうかべた菊酒で、邪気をはらい、長寿を願います。



十五夜 (旧暦の8月15日の夜)

「中秋」ともいい、お月見をします。また、「十三夜」もあり、豆と、すすきやくり、団子などをお供えするので「豆名月」とも呼ばれます。



七五三 (11月15日)

子どもが大人になる通過儀礼の一つ。長い「ちとせあめ」は、食べると長生きするというえんぎ物として江戸時代に売り出されました。



冬至 (12月21日ごろ)

1年の中でいちばん昼の時間が短い日。冬至にかぼちゃを食べると魔よけになり、かぜをひかないといわれています。



大みそか (12月31日)

年越しそばを食べるようになったのは、江戸時代から。そばのように細く長く、長生きであるようにという願いがこめられています。



正月 (1月1日)

家族の健康と幸せを祈って、おせち料理を食べます。料理一つ一つに、一年間元気に暮らせるようにという願いがこめられています。



人日の節句 (1月7日)

この日に、七草がゆを食べると病気をしないといわれています。



鏡開き (1月11日)

神様の霊が宿ったお正月にお供えたもちを、包丁を使わず木づちで割り、おしるこや雑煮にして食べます。



小正月 (1月15日)

正月の行事がひと段落する日ともいわれ、年末から忙しく働いた女の人たちの労をねぎらい、あずきがゆなどを食べます。



節分 (2月3日ごろ)

節分は、季節の分かれ目のこと。豆まきの豆を年の数だけ食べれば、病気に勝つといわれています。



日本では、季節ごとの行事のさいに、決まって同じものを食べる「行事食」の習慣があります。行事食は、昔から、健康や長生き、田畑の豊作などを祈って食べられています。

